

岡山県内の降雨状況

7月6日（金）岡山県に大雨特別警報発令

本州付近に停滞する梅雨前線の活動が活発になり、中国地方で降り始めからの総降水量が450mmを超え、昭和47年7月豪雨以来の記録的な豪雨を観測
特に、高梁川上流域と成羽川上流域で、時間雨量20mm程度の比較的強い降雨が15時間程度継続
各観測所で史上最高水位を更新

県内水道事業体の主な被害状況等

事業体名	被害状況	県内応援期間
岡山市	取水場冠水 管破損	—
倉敷市	浄水場冠水 管破損 断水 8,900戸	7/8～23
津山市	管破損	—
新見市	簡易水道施設冠水 断水 644戸	7/20～28
真庭市	河川濁度上昇につき浄水場ろ過能力超過	7/6～8
高梁市	上水道3水源・簡易水道4水源冠水 断水 7,071戸	7/7～18
矢掛町	浄水場冠水 管破損 断水 3,416戸	7/7～14
美咲町	管破損 断水 10戸	—

<倉敷市真備町>

1 倉敷市真備町の概要

平成17年8月1日倉敷市と合併

（旧吉備郡真備町 浅口郡船穂町とともに編入）

真備支所 倉敷市真備町箭田1141番地1

交通 JR西日本 伯備線清音駅、井原鉄道株式会社
西日本高速道路株式会社 山陽自動車道・玉島IC

面積 44.19平方キロメートル

人口 22,797人（平成30年6月末）

→ 20,985人（11月末日）

世帯数 9,006世帯（平成30年6月末日）

→ 8,204世帯（11月末日）

2 被害の概況

7月7日（土）高梁川・小田川の急激な水位上昇等に伴い、小田川・二次支川で堤防が決壊

浸水面積	約	12平方キロメートル（真備町の約27%）
被災家屋	全壊	4,632棟
	半壊	821棟
	計	5,453棟（真備地区・10月2日時点）
死者数		52人（市全体）
避難者数		3,513人（真備地区・7月8日18時時点）

3-1 水道施設の被害

(1) 浄水場

真備浄水場 取水井5本浸水により機能停止
 浄水場冠水により機能停止

(2) 管路等

送・配水管 11箇所 仕切弁・空気弁 13箇所破損 給水管 70箇所

3-2 断水の発生状況

7月	6日（金）	23:33	工場爆発により真備浄水場停電・送水不能
	7日（土）	0:45	土砂崩れにより田口配水池への送水管破損
			真備町市場地内の約100戸断水
		5時頃	末政川の決壊により送水管が流失
		11:25	真備浄水場冠水・機能停止
			真備地区全域（約8,900戸）で断水



4 被害及び断水への対応

(1) 応急給水活動

臨時給水所 最大7箇所（7時～21時）

給水車による応急給水活動 応援人員延べ826人

7月 7日（土）～24日（火）

倉敷市 給水車延べ53台

岡山県支部 岡山市ほか5団体 給水車延べ90台

中国四国地方支部

萩市ほか3団体 給水車延べ8台

関西地方支部 大阪市ほか16団体 給水車延べ114台

第一環境棟 給水車延べ17台



(2) 応急復旧活動

配・給水管の修繕及びバルブ操作等 応援人員延べ243人

7月7日(土)～31日(火)

岡山県支部 岡山市ほか県内6事業体

倉敷市管事業協会



(3) 水質試験

7月16日(月) 小田川南側の検査完了

7月23日(月) 小田川北側の検査完了

倉敷市水道局浄水課による水質基準項目51項目の検査

7月19日(木)～23日(月)

小田川の北側 10地点 各3回 計30回

東京都水道局による水質試験車での簡易水質検査(水道災害救援隊3人)

5 復旧状況

(1) 断水の解消

7月16日(月) 12:00

小田川南全域約1,300戸

(玉島上成浄水場系の水を船穂町柳井原配水池, 玉島寒田配水池
経由で送水)

7月24日(火) 9:00

小田川北全域約7,600戸

(岡山県広域水道企業団の受水を増量し送水)

(2) 浄水場

- 7月10日(火) 操作盤類洗浄外復旧作業開始
- 11日(水) 取水井洗浄・水替開始
- 17日(火) 仮設受変電盤設置
- 18日(水) 電源復旧を受け各機器類動作確認
- 20日(金) 排水のため取水～浄水～送水までの手動運転開始
- 31日(火) NTT回線復旧を受け各機器類動作確認
- 8月22日(水) 真備浄水場仮復旧による稼動開始
辻田配水池系送配水開始(手動運転)
- 9月13日(木) 下二万配水池配水開始

(3) 管路等(9月30日時点)

- 送・配水管 未政川添架の送水管を除き全て復旧又は仮復旧済
- 仕切弁・空気弁 全て復旧又は仮復旧済
- 給水管 流失・立入禁止家屋等箇所を除き復旧又は仮復旧済

6 課題等

(1) 応急活動

情報の収集、連絡不足

- ・局内含め、必要な情報がなかなか手に入らなかった。
- ・応援事業者との横の連携や情報共有が難しかった。

被災者のニーズ把握

- ・巡回給水や病院・福祉施設等への給水など、当初の想定とは異なるニーズが多くあり、対応が困難であった。

(2) 復旧

本復旧の計画

- ・管路流出部は未復旧であり、仮復旧している箇所を含め、県による河川改修計画が未定であるため本復旧の見通しは立っていない。